

10. 四国（地域別調査機関：四国経済連合会）

（－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連  (四国)	◎	スーパー（店長）	単価の動き	・巣籠り需要があり、1人当たりの買上単価が上昇している。
	○	一般小売店〔書籍〕（営業担当）	お客様の様子	・休日にコミックや文芸書をまとめ買いする客が増えてきた。
	○	スーパー（財務担当）	お客様の様子	・緊急事態宣言の再発令で、外食から内食への需要の転換が再度加速しており、内食用の商品の売上が増加している。
	○	家電量販店（副店長）	来客数の動き	・エアコンや空気清浄機等の空調関連商品は依然として好調に推移しており、全体的に来客数も戻ってきている。
	○	競輪競馬（マネージャー）	販売量の動き	・新型コロナウイルスの感染拡大により、経済全体では悪化傾向にあるものの、景況感の良しあしは業界により分かれている。旅行業界や外食産業、レジャー産業等が自粛、時短営業等で打撃を受けている反面、競艇業においてはこれらの反動でネットや電話投票等の購入が増加している。また、イベント等が中止されたことにより経費が削減され、増益傾向にある。
	□	スーパー（企画担当）	お客様の様子	・新型コロナウイルスの感染再拡大に伴い、内食需要は依然として高い状態であり、まとめ買い等による買上数量の増加が売上高増加に貢献している。一方、来客数については前年の後半以降低調に推移している。
	□	コンビニ（商品担当）	お客様の様子	・前回の感染拡大時のような買占めは起きておらず、マスクやトイレットペーパーなどの衛生用品も通常の売行きである。しかし、レジ袋の有料化が新型コロナウイルスの影響かは定かではないが、客単価は低い状態である。
	□	衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの影響で来客数がかかなり減少している。今後、景気は良くなっていくと思うが、もう少しこの厳しい状況が続くかもしれないと考えている。
	□	家電量販店（店員）	販売量の動き	・単身者向け商品の需要が見受けられ始めたが、例年より少なく全体の底上げになっていない状況である。
	□	乗用車販売業（営業担当）	販売量の動き	・売上が少し減少しかけていたが、新春イベントの実施により、好調であった3か月ほど前の水準の売上高は確保できた。
	□	乗用車販売店（役員）	販売量の動き	・消費税増税後の落ち込みをカバーしてきた販売量が前年並みに落ち着いてきた。
	□	旅行代理店（営業担当）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの感染拡大により、Go To Travel キャンペーンが一時停止しており、客の来店が全くなくなっている。また、ネットでの予約もほとんどない状況である。
	▲	商店街（事務局長）	販売量の動き	・年明け以降、緊急事態宣言の再発令に伴い、当地域でも週を追うごとに通行量が減少している。また、月末には株価が大幅な下落に転じており、年末年始の好調な消費の下支えとなっていた富裕層の高級品購買に黄信号がとまることになった。
	▲	百貨店（企画担当）	お客様の様子	・年明けから売上が30%程度減少し、一向に回復の兆しがない。
	▲	百貨店（販売促進）	来客数の動き	・緊急事態宣言の再発令により、外出自粛が顕著にみられる。
	▲	百貨店（営業管理担当）	来客数の動き	・12月は来客数が前年比78%と回復基調であったが、1月に入り前年比63%と減少傾向にある。
	▲	コンビニ（店長）	来客数の動き	・県から自粛要請が出て以降、来客数が減少しており、特に18時以降は激減している。
	▲	コンビニ（総務）	来客数の動き	・来客数の前年割れが拡大している。新型コロナウイルス禍による緊急事態宣言の再発令や、県内の状況が悪化したことが来客数に影響を及ぼしている。
	▲	衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・12月頃までは、経営状況が悪いなりにもそれなりの水準で推移していたが、緊急事態宣言の再発令以降は、急速に落ち込み、今までは全く違った動きとなってきたことから、少し厳しい状態である。

▲	乗用車販売店 (従業員)	販売量の動き	・新車の受注状況は前年並みで推移しているが、新型コロナウイルスの感染再拡大で先行きは不透明である。
▲	その他専門店 [酒] (経営者)	お客様の様子	・客の店舗での滞在時間はかなり短く、すぐ店を出る傾向にある。
▲	一般レストラン (経営者)	来客数の動き	・当地域では自治体による時短要請は終了したが、客足は戻っていない状況である。ワクチン等の有効な手段が一般化しない限り、客足は遠のくばかりだと思う。
▲	タクシー運転手	お客様の様子	・3か月前と比べると、客の乗車率は70%下落している。12月以降、県による新型コロナウイルス感染拡大に対する警戒レベルは下がったが、同時に外出や移動の自粛、飲食店等への時短要請もあった。現在は、いつも飲みに出てきている人しか客がいない状況である。
▲	通信会社 (営業部長)	来客数の動き	・緊急事態宣言の再発令以降、来客数が前年度の7～8割程度に減少している。
▲	美容室 (経営者)	来客数の動き	・客の来店のサイクルが延びている。
×	商店街 (代表者)	それ以外	・年始早々に緊急事態宣言が地域限定で再発令され、一段と来街者数が減少した。当地域は対象ではなかったが、その後自治体による時短営業の協力要請が発表され、その要請を受け入れて営業をしているため、更に客の利用状況が悪化している。
×	商店街 (代表者)	それ以外	・新型コロナウイルスの終息状況はもちろんだが、駅前核店舗の再生にめどが立っていない上、県市行政の街づくりにおける構想や方向性が時代に全く合っていないため、かなりの年月で空白の時代が続くと考えている。
×	商店街 (代表者)	来客数の動き	・新型コロナウイルスの第3波や国の緊急事態宣言の影響もあり、特に夕方以降、人出が全くなく、第1波の5月頃のような大変ひどい状況が続いている。
×	一般小売店 [生花] (経営者)	それ以外	・スナックや居酒屋は休むと協力金が支給されるため休業している店舗が多いが、花屋や魚屋、酒屋などには1円も支給されない。人通りもなく、売上や保証もない状態で、どこの店が閉店してもおかしくない最悪の状況である。新型コロナウイルスの感染者が確認された店には保証があり、真面目に働いている人には保証がない現在の政策に怒りを覚える。
×	コンビニ (店長)	来客数の動き	・政府の緊急事態宣言再発令以降、来客数が激減している。近隣でクラスターが発生したこともあり、本当にひどい状況である。
×	衣料品専門店 (営業責任者)	販売量の動き	・売上高は前年比60%程度で推移している。全国的な感染拡大と都市部での緊急事態宣言により、大幅に客足が鈍化しており非常に厳しい状況である。
×	その他小売 [ショッピングセンター] (副支配人)	お客様の様子	・新型コロナウイルスの新規感染者数が増加しており、外出自粛の傾向が更に強くなっている。
×	一般レストラン (経営者)	来客数の動き	・恐れていた第3波が現実となったことに加え、今回は飲食店が規制のターゲットとなったことにより、来客数が激減した。1度目の緊急事態宣言発令時より売上が落ち込むおそれがある。
×	観光型旅館 (経営者)	来客数の動き	・Go To Travelキャンペーン事業の一時停止や緊急事態宣言により、ほぼ休業状態である。
×	都市型ホテル (経営者)	来客数の動き	・Go To Travelキャンペーンの一時停止の影響で、宿泊客数が大幅に減少した。これに加え、自治体による飲食店への時短要請により、全く客が動かないという状態が続いている。
×	タクシー運転手	来客数の動き	・新型コロナウイルスの影響で、客がかなり減少している。特に夜は飲みに出る人が減っているため、稼ぎ時である22時以降の運賃2割増しの時間帯も全く客がおらず、当社では出勤日数を月20日から14日に減少させている。昼間に通院を控える傾向もみられるため、全体的に厳しい状況である。

	×	美容室（経営者）	来客数の動き	・例年1～2月は余り客が動かないが、新型コロナウイルスの影響で更に悪化している。	
企業 動向 関連  (四国)	◎	通信業（企画・売上管理）	受注量や販売量の動き	・都市部のスポンサーを中心に全体としてのCMの投下量は増加している。緊急事態宣言の影響が不安視されたが、業種によって増減がある。当地域を拠点とするスポンサーの広告料は減少している。	
	○	木材木製品製造業（営業部長）	受注量や販売量の動き	・若干ではあるが、受注量が上向きに推移している。大手ハウスメーカーの契約棟数も回復傾向にあるので、今後に期待している。	
	○	電気機械器具製造業（経営者）	競争相手の様子	・新型コロナウイルス禍のなか、再生可能エネルギーや環境関連については仕事の受注に関する話が非常に多くなった。	
	○	電気機械器具製造業（経理）	受注量や販売量の動き	・前月同様、新型コロナウイルスのワクチンを保管する保冷庫の需要が大きく伸びており、一過性の特需に近いものであるが、一部の事業者で受注量や販売量が改善している。	
	○	輸送業（経理）	受注量や販売量の動き	・一部の客は新型コロナウイルスの影響を受けて出荷数量の減少が続いているが、全体的には回復傾向にあり、特に海運関係の客は前年同時期の出荷数量を上回っている。	
	□	鉄鋼業（総務部長）	受注量や販売量の動き	・新型コロナウイルスの影響で、受注量、販売量共に悪い状態が続いている。	
	□	建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・公共事業関連の仕事が繁忙期に入り、業務の進捗とともに、売上が上がっていくという例年とおりの構図が今年度も継続している。加えて、納期の平準化や仕事量自体の増加により、当業界では景況感が良い状態が続いている。	
	□	建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・引き続き官民とも受注ができない状況である。	
	□	輸送業（経営者）	受注量や販売量の動き	・現在の状況が最低であるため、これより下がることはない。	
	□	税理士事務所	取引先の様子	・取引先の売上などの状況を考慮しても、最近は特に変動がみられない。	
		▲	繊維工業（経営者）	受注量や販売量の動き	・現段階ではほぼ前年並みの売上が確保できているが、今月初旬の緊急事態宣言の再発令以降、状況が厳しくなっている。これまで前年以上の受注があった地方の小売店でも、注文が急減したところも多い。一方、当社のオンラインサイトでの売上加え、ネット販売に重点を置き始めた小売店からの受注は好調で、何とか前年並みの業績を維持している。当社は都市部でも小売店を運営しているが、平日は人通りがなく、売上も日販で数千円のこともある。今後、経営を継続するかどうかの検討も含め、各事業の見直しをする必要があると考えている。
		▲	化学工業（所長）	受注量や販売量の動き	・前年の秋頃から受注量は増加傾向にあったが、年末頃から状況が悪化してきた。新型コロナウイルスの影響も大きく、先行きは不透明である。
		▲	輸送業（営業）	受注量や販売量の動き	・11～1月の間においては、新型コロナウイルスの第3波の到来と緊急事態宣言再発令の影響を受け、消費者の行動や移動の自粛が再び強化されたことが、取扱物量の減少に直結した。例外であったのは、取扱物量が低迷するなか12月後半に物量が前年並みで推移したことであり、これは東日本を中心に猛威を振るった寒波による物流麻ひと、年末年始の帰省を控えた巣籠り需要の増加が影響したのではないかと考えている。
		▲	金融業（副支店長）	取引先の様子	・新型コロナウイルスの第3波の影響により、飲食業や宿泊業を中心に打撃を受けている。
		×	農林水産業（職員）	受注価格や販売価格の動き	・青果物の価格は、例年の70～80%程度で推移している。特に、業務需要は緊急事態宣言の再発令もあり厳しい状況である。例年なら恵方巻の需要で値上がりするきゅうりも、月末にやっと価格が上昇したものの勢いはなく、5キロ当たり500～800円程度の安値となっている。
		×	一般機械器具製造業（経理担当）	受注量や販売量の動き	・新型コロナウイルスの影響もあって、海外工場の時短勤務や海外での商談が長引く等の影響が見受けられる。

雇用 関連  (四国)	◎	—	—	—
	○	—	—	—
	□	新聞社〔求人広告〕（担当者）	それ以外	・新型コロナウイルスの影響で落ち込んだ景気が戻ってきていない。観光業や飲食業はもちろん、それに付随したその他の産業も厳しい状況である。
	□	民間職業紹介機関（所長）	求人数の動き	・求人の動きに余り変化がなく、景気が上向いているとはいえない状況である。特にホテルを中心とした宿泊業や観光業と、美容業の求人については、例年と比較して激減したままである。
	□	学校〔大学〕（就職担当）	求人数の動き	・新型コロナウイルス感染拡大の影響により、今後の求人状況がどうなるか不透明であり、現在の大学3年生が就職活動をする際の情勢を危惧している。
	▲	人材派遣会社（営業担当）	採用者数の動き	・派遣スタッフの採用を必要最低限に抑える傾向がみられる。
	▲	人材派遣会社（営業）	周辺企業の様子	・新型コロナウイルス感染拡大防止による飲食業への時短要請に伴い、店舗を取り巻く卸業者や夜間の公共交通機関等が大きな影響を受けている。協力金支給により営業機会を見極めている店舗は良いが、店舗の規模によっては廃業や職員の解雇の決断を余儀なくされるという現実がある。先行き不透明で景気回復はまだ見込めない状況である。
	▲	人材派遣会社（営業担当）	求人数の動き	・一部派遣の需要は回復しつつあるが、サービス業関係の需要が全くない状況である。
	▲	求人情報誌（営業）	求人数の動き	・以前は求人数の多い業種もあったが、ここ数か月で業種を問わず求人数が減少している。
	▲	職業安定所（求人開発）	周辺企業の様子	・新型コロナウイルスの感染拡大による影響が様々な産業に出ており、事業所閉鎖や事業縮小等による人員整理を実施する事業所の発生が、4月以降継続している。1月になって、緊急事態宣言が再発令され、都市部から当地域への人の移動が激減することによる影響が、緊急事態宣言解除まで続くと思われる。
×	—	—	—	